

養殖アサリを地域の特産物に！

地域でアサリの採苗から養殖までを一貫して行うシステムの開発

アサリの安定生産と新たな産業形態の創出を図るため、アサリの天然採苗技術と垂下養殖技術を開発しました。

この研究成果は、国立研究開発法人 水産総合研究センター増養殖研究所、鳥羽磯部漁業協同組合 浦村アサリ研究会、三重外湾漁業協同組合 五ヶ所湾アサリ研究会、(株)ケアシエル、伊勢農林水産事務所との共同研究によるものです。

農林水産技術会議委託「平成24～26年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」

網袋式採苗器

- 網袋の目合いは、1.0分(3mm角)、1.2分(3.6mm角)、1.5分(4.0mm角)により採苗が可能で、場所によっては1.5分の成績がやや優れました。
- 砂利に対するカキ殻固形物(ケアシエル)の割合は、25%以下で良いことが分かりました。
- 半年～1年間の設置で、殻長20mm以上のアサリ種苗が、個数で最高480個/袋、重量で最高1,253g/袋採集できました。
- 浮遊幼生が来遊しやすい、河口域や海水の流れが良い場所での採苗成績が良いことが分かりました。
- 高波浪域や砂泥域では、採苗器が埋没しないように管理が必要です。また、石が多い場所では、石を除去し、地盤をならしてから採苗器を設置することが採苗成績を上げるポイントです。

ラッセル網
(サイズ:30×60cm)
(目合い:1.0～1.5分)



基質(5L)
(砂利:75%以上)
(ケアシエル:25%以下)

網袋式採苗器



高波浪域
砂泥域



石が多い
場所

埋没に注意！
(アサリが死にます)

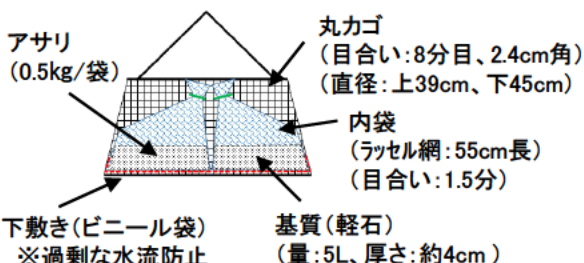
石を除去して設置！
(アサリが入りません)

丸カゴ式垂下養殖

- 従来の「コンテナ式」と成長に遜色がなく、軽量で、容器からアサリが脱落する心配がない「丸カゴ式」のアサリ垂下養殖法を開発しました。
- 「丸カゴ式」では、重量は「コンテナ式」の約半分で2倍量のアサリを収容できます。さらに、2段、3段吊りも可能です。「コンテナ式」に比べてメンテナンスも容易です。
- アサリの成長は、垂下場所や垂下水深、収容密度などの養殖環境の違いにより、大きな差が生じることが分かりました。
- 約1年で殻長20mmのアサリ種苗が高価格での出荷が可能な35mmにまで成長し、約70%以上が生残することが分かりました。養殖環境が良ければ、さらなる好成績も期待できます。



約1年で
殻長20mm→35mmに！



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812

(2015年3月発行)